

Takashima, H.- On the localities of a Japanese harvester

Opilio spinulatus, etc.

下 田 の 瞽 蛛 雜 記

高 島 春 雄

東京市本郷區駒込曙町五

〔昭和十一年四月二十日受領〕

静岡県下田町東京文理科大學附屬臨海實驗所近傍にて昨年數種の瞽蟲類を獲たり。目下岸田先生に同定を御依頼しあるも中に特筆すべきはトゲオホザトウムシなり。ザトウムシと云ひメクラグモと稱するは既に「重修本草綱目啓蒙」などに「地上ヲ行クコト，瞽者ノ杖ニテサグリ行ク狀ニ似タリ，故ニ俗ニザトウグモト呼ブ」とあるが如き意なり。通常頭上に1對の單眼を有し盲者には非ず。眞正蜘蛛類に非ざるが故メクラグモの稱を避けザトウムシと呼ぶを可とす。下田の海濱の岩窟内（脚下に海波爬ひ寄るが如き個所にも）に多き瞽蟲は岸田氏の「富士の動物」に見ゆるヒトハリザトウムシ *Gagrella japonica* Roewer, 1910なるが如く，町外朝日村にては兒童は呼ぶにアシナガグモの方言を以てす。豫が昨年5月30日下田町鍋田の林地叢上（實驗所構内を少し外れたる地點）にて獲たる大なるザトウムシは岸田氏の鑑定にては *Opilio spinulatus* Roewer, 1911の成雄にして，之は支那の各地と日本とを既知産地とするも日本にては此の1頭により眞の産地〔伊豆〕判明したる次第なりと謂ふ。氏はトゲオホザトウムシの新和名を與へられたり。下田特産の瞽蟲とは云ひ難かるべきも目下の處下田産陸棲動物中注目すべき種類たるを失はず。大形の瞽蟲なると多數の紅

色の蟬寄生して目覺ましかりしに眼を奪はれたるにて、此の發見は予輩にとりては尤も歩けば棒に當るの感無きにあらざりしが、予輩の蟬蟲への關心は之以後大いに拍車をかけたるを否むべからず。本邦産蟬蟲にして既知のもの80餘種を算すと云ふ。

日本産蟬蟲に關する邦人の業績は未だ至つて尠し。下掲のものは其の殆ど全部なるべし。

岸 田 久 吉 日本動物圖鑑 pp. 971—972, figs. 1873—1876(1927)

岸 田 久 吉 富士の研究 VI 富士の動物, 富士の植物 pp. 446—458, figs. 39—40(1928)

岸 田 久 吉 ザトウムシ目の分類表及科名檢索表 *Lansania* vol-ii, no. 14, pp. 53—58(1930)

Kishida, Kyukichi Notes on a remarkable form of Japanese Harvesters
Lansania vol-ii, no. 14, pp. 61—64(1930)

岸 田 久 吉 ラビザトウムシの分布 *Lansania* vol-ii, no. 17, p. 97
(1930)

江 崎 悌 三 多足類 蜘蛛類〔岩波講座生物學〕 pp. 57—61(1930)

湯 原 清 次 蜘蛛の研究 pp. 54, 293—300, figs. 171—176(1931)

畠 山 久 重 筑波の動物報告 理學界 vol-xxix. no. 9, p. 863(1931)

Saito, Saburo Araneida from the Northern Kurile Islands, with
Descriptions of Two New Species. *Bull. Biogeograph.*
Soc. Jap., vol. iv, no. 2, pp. 122—131 [p. 131](1933)

植 村 利 夫 ロツボンヤリザトウムシ 理學界 vol. xxxii, no. 369, pp.
237—238, 1 fig. (1934)

植 村 利 夫 和歌山縣産ザトウムシ類目錄 紀州動植物 vol-i, no. 2,
pp. 36—37(1934)

高 島 春 雄 下田のトゲオホザトウムシ 博物學雜誌 vol. xxxiii, no.